

○ 文化財の概要

1	名 称	能装束 <small>のうしょうぞく</small>
2	員 数	4領
3	所 有 者	一般財団法人J.フロント リテイリング史料館
4	所有者の住所	名古屋市中区栄3-16-1
5	文化財の所在地	名古屋市中区栄3-16-1
6	時 代	桃山時代～江戸時代初期
7	概 要	

(1) 紺地菖蒲蓬菊桐文様小袖こんじしやうぶよもぎきくきりもんようこそで

身丈115.0cm 衿48.0cm

(2) 萌黄地紋入格子縞藤文様片身替厚板もえぎじもんいりこうししまらじもんようかたみがわりあついた

身丈141.0cm 衿62.3cm

(3) 薄黄地紋入格子鱗文様片裾厚板うすきじもんいりこうしうろこもんようかたすぞあついた

身丈112.5cm 衿65.5cm

(4) 茶地紋入格子文様厚板ちやじもんいりこうしもんようあついた

身丈141.0cm 衿66.5cm

もと金春家¹伝来の能装束4領。それぞれに柔らかな糸渡りの刺繍を用いた文様表現や、複数の色糸を用いて華麗な文様を浮織²で表すなど、桃山から江戸時代の能装束の特徴をよく示している。また、当時代の能装束の姿をよく留めている現存品は少ない。

本件は、極めて良好な状態で伝存している貴重な遺品である。

1 金春家：能の一流派。シテ方五流のうち、もっとも古いとされる。

2 浮織：綾などの地紋または二重織物の上紋の横糸を浮かして織ること。



(1) 紺地菖蒲蓬菊桐文様小袖

(一般財団法人J.フロント リテイリング史料館提供)



(2) 萌黄地紋入格子縞藤文様片身替厚板

(一般財団法人J.フロント リテイリング史料館提供)



(3) 薄黄地紋入格子鱗文様片裾厚板

(一般財団法人J.フロント リテイリング史料館提供)



(4) 茶地紋入格子文様厚板

(一般財団法人J.フロント リテイリング史料館提供)

(撮影 青木信二)